

宮城県における民間企業と 連携した取組紹介



宮城県企画部総合政策課
課長 三浦 周

新・宮城の将来ビジョンとSDGs

新・宮城の将来ビジョンとは

県政運営の基本的な指針

宮城県の将来のあるべき姿や目標を県民と共有し、その実現に向けて宮城県が優先して取組むべき施策を明らかにするために策定

■計画期間 2021～2030年度(10年間)

県政運営の理念

富県躍進! “PROGRESS Miyagi”
～多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して～

県民、企業、NPO、大学・研究機関、行政など

宮城の将来像

- 震災からの復興を成し遂げ、民の力を最大限に生かした多様な主体の連携により、これまで積み重ねてきた富県宮城の力が更に成長し、県民の活躍できる機会と地域の魅力にあふれ、東北全体の発展にも貢献する、元気で躍動する宮城
- 県民一人ひとりが、安全で恵み豊かな県土の中で、幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城



理念や施策に反映



SDGsの5つの特徴

- ・普遍性
- ・包摂性
- ・参画型
- ・統合性
- ・透明性

復興の対応方針

被災地の復興完了に向けたきめ細かなサポート

4つの政策推進の基本方向

富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

社会全体で支える宮城の子ども・子育て

誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり

強靭で自然と調和した県土づくり

【取組例①】みやぎコーストプロジェクト

○取組み内容

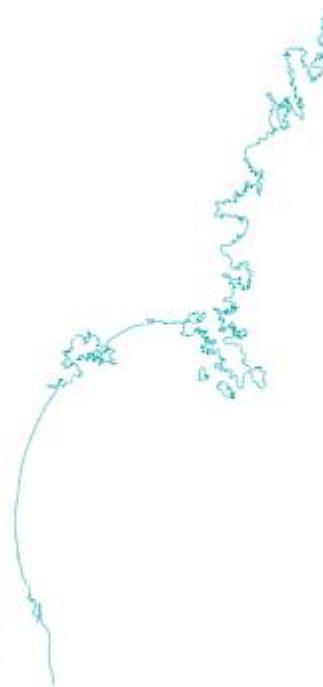
- ・2011年の東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた沿岸エリアで、海岸防災林と藻場を再生する取組み。
- ・併せて、脱炭素として注目される「グリーンカーボン」、「ブルーカーボン」による温暖化対策にも取り組んでいく。

○プロジェクトの構成



約1,300haの整備された広大な
土地にクロマツを育て強く美しい
海岸防災林を再生する

▶みやぎグリーンコーストプロジェクト



復活した水産業の現場から
自然環境を保全し持続可能な
漁業の新しいカタチを探る

▶みやぎブルーカーボンプロジェクト

【取組例①】みやぎコーストプロジェクト

グリーンコーストプロジェクト

○これまでの取組み



→10年以上の歳月をかけて、クロマツ林が再生

○これからの方針

植栽された苗木が生長するように、下刈りやつる切りなどの保育活動(育林)を継続することが大切



【取組例①】みやぎコストプロジェクト

ブルーカーボンプロジェクト

○これまでの取組み



震災
県内の約5,000haの藻場
ほとんどが被災しました。

磯焼け対策
ハード・ソフト対策が一体となった藻場造成・保全の対策を実施しています。

藻場の回復
アラメをはじめとした藻場が回復している地域も見られるようになりました。

→藻場の造成・保全や海藻養殖の回復が進んできている

○これからの取組み 藻場回復・保全や周知広報を進めるとともに、藻場のCO₂吸収量をクレジット化して販売する取組みを進める



「環境貢献」も「社員の笑顔」も叶える！
ブルーカーボンで
海とつながる日帰りツアー

2025年9月13日(土) | 集合8時35分
解散16時30分

舞台は東北のハワイ・網地島

参加対象
ネイチャーポジティやブルーカーボンに
関心のある企業のご担当者等

定員
10名 (※定員に達した場合は抽選となります)

料金
5,000円 (税込)

J-BlueCredit
クレジットの取得、販売を開始しました。

【取組例2】みやぎSDGs Farm

【みやぎSDGs Farmとは】

- ✓ SDGsに取り組む企業の「学びの場」、ネットワークコミュニティづくりによる「新たなビジネスチャンスの場」、SDGsの取り組みを発信することによる「企業価値の向上の場」として、2021年12月より始動
- ✓ 標準コースと実践コースで構成されている

【みやぎSDGs Farm 標準コース】

- ✓ セミナーやワークショップ（現地視察）を開催
- ✓ 受講者がSDGsに対する理解を深め、自社の取り組みにSDGsを反映
- ✓ 受講者同士の企業間交流を促進

【県の関与】

オブザーバー参加、
SDGs塾資料の作成協力（考えるドリル）

【令和7年度（第5ターム前期）スケジュール】

- ① 11月27日（木） SDGsセミナーⅠ・オリエンテーション自社紹介
- ② 12月17日（水） SDGsセミナーⅡ・SDGs取り組み事例報告会
- ③ 1月27日（火） SDGs実践地ワークショップツアー
(バスで移動し現地視察します※終日)
- ④ 2月26日（木） 伝わる文章の書き方講座・宣言文作成講座
- ⑤ 3月19日（木） 「わたしのSDGs活動宣言」合評会
「みやぎSDGsアンバサダー」認定式

みやぎSDGs Farm 始動

SDGs新幹線

目標達成に向け連携加速

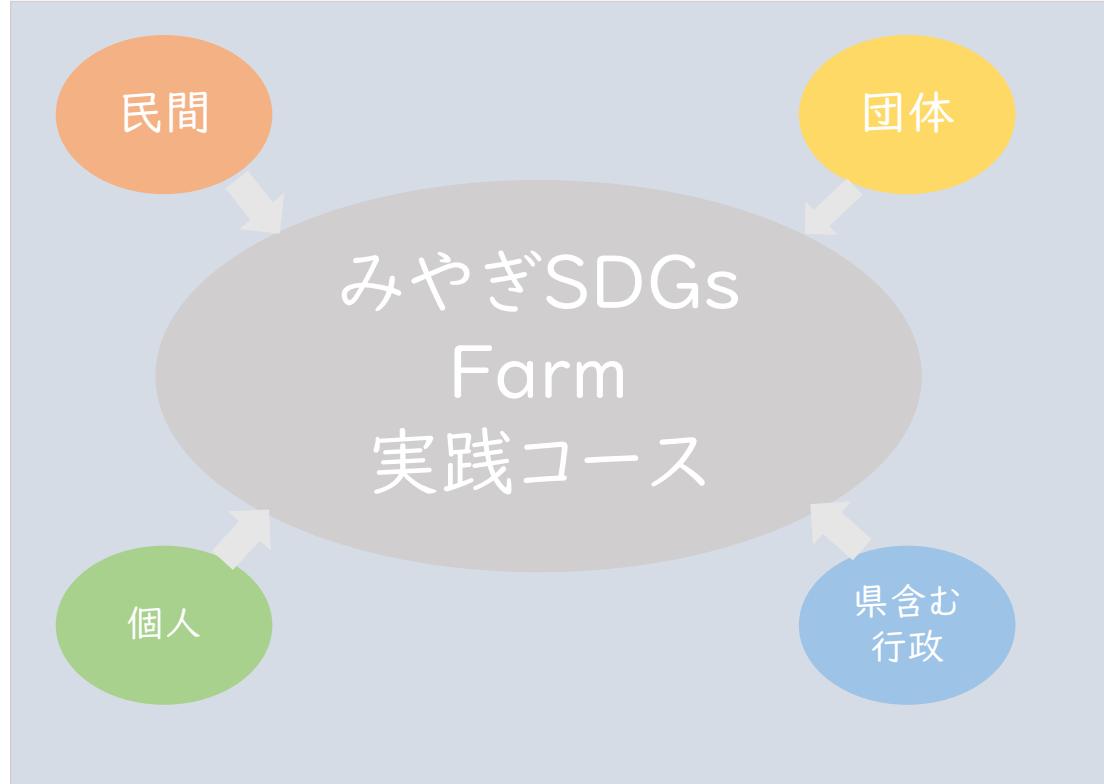
【出典】河北新報社HP

6

【取組例2】みやぎSDGs Farm

【SDGs Farm 実践コースとは】

- ✓ 標準コースを卒業したアンバサダーを中心に県内でSDGsを推進する民間・団体・個人、県を含む行政が参加
- ✓ 参加者間での顔の見えるフラットな関係づくりと、SDGsの事例共有が目的。
- ✓ 各事例の磨き上げに繋げるとともに、地域ベースでの地域課題の掘り起こしも想定。



【参加機関】※順不同

宮城県などの行政のほか、民間事業者や団体など 計17機関参加（令和7年3月末）

【活動内容】

- ✓ メンバーによる意見交換会（月1回）の開催
- ✓ 参加者間によるメーリングリストでの情報共有（随時）
- ✓ テーマを設定し、そのテーマに関するスピーカーに話題提供いただき、その後ワークショップを行う形で開催

【今年度実施したテーマ】

- ✓ ベトナムを中心とするソーシャルベンチャーの海外事情
- ✓ ポストSDGsに向けて、考え始めてみる！
- ✓ エシカル消費とSDGsの関係について-企業の責任と成長戦略-

【取組例2】みやぎSDGs Farm

連携事例①

- ・生コンクリートを扱う会社と県がコラボ
- ・ミキサー車に県のキャラクター「むすび丸」と観光キャンペーンキャッチコピーをラッピング
- ・工事現場や住宅街を走ることで見る人の興味関心を引きつけ、県の観光情報をPR



ラッピング車（株式会社タイハク提供）

連携事例②

- ・総合食品卸会社が主催する総合展示会で生じた食品サンプルの余剰分を県を通じて子ども食堂へ寄附。



総合展示会の様子（国分東北株式会社提供）

ご清聴ありがとうございました